

試験開始の指示があるまで、この配布資料の中を見てはいけません

2025 年度 神戸市外国語大学

総合型選抜 配布資料

【注意事項】

1. この配布資料は、この用紙を除いて、両面 10 枚（19 ページ）あります。
2. 印刷不明瞭、ページの落丁、乱丁に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
3. 資料の余白等は適宜利用してかまいません。
4. 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては、厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者がカードを用いて注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
5. 試験終了後、この冊子は持ち帰ってください。

ロシアの呪文から見る フォークロアの世界

授業の概要

- 目的

- ロシア・フォークロアの具体例を知ることを通して、フォークロアへの理解を深める。

- 構成

- 1. フォークロアとは
- 2. 呪術と呪文をめぐるロシアの歴史
- 3. ロシアの伝統的な愛の呪文
- 4. 現代ロシアの呪文

1. フォークロアとは

1-1. フォークロア (folklore) とは

- 民間伝承
 - ひとつの共通因子を分かち持っている人々の集団で伝承されているもの (ダンデス1994:32-33)
- ロシアにおけるフォークロアの範囲
 - 昔話、伝説、民謡などの言語芸術のみ (物質文化、言葉を介さない精神文化などは含まず)

1-2. ロシア・フォークロアのジャンル

- 儀礼と関係するフォークロア・ジャンル
 - 季節儀礼（農耕儀礼、祭りなど）、人生儀礼（出産、結婚、葬式など）、呪文
- 儀礼と関係しないフォークロア・ジャンル
 - 昔話、伝説、世間話、バラード、英雄叙事詩、歌（抒情歌、子守歌、遊び歌など）、民衆劇
- 小ジャンル
 - なぞなぞ、迷信・俗信、ことわざ、アネクドート

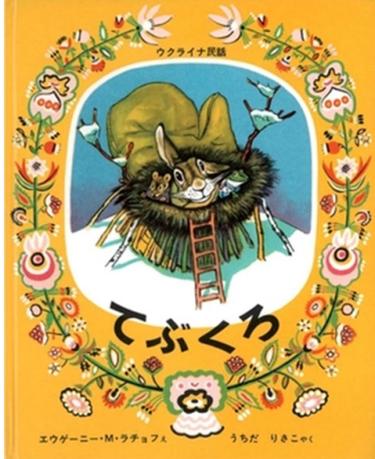
(Pocc 2008)

1-3. 文学作品との違い

文学作品	フォークロア
特定の個人による創作	集団による創作
書承	主に口承
固定されたテキスト	変化し続けるテキスト、多数のバリエーション

(Pocc 2008)

1-4. ウクライナ昔話 『てぶくろ』



E. ラチョフ絵、うちだりさこ訳
『てぶくろ』福音館書店、1965年

- 絵本でおなじみのバージョン
 - 動物：ネズミ、カエル、ウサギ、キツネ、オオカミ、イノシシ、クマ
 - 家：おじいさんが落とした手袋
 - 結末：動物たちはおじいさんが連れていた犬の声に驚いて逃げる
- バリエーション
 - 動物：ノミ、シラミ、蚊、ハエ、ゴキブリ、トカゲなども
 - 家：ふるい、壺、水差し、パンの皮、シラミの家、ハエの御殿、馬の頭蓋骨なども
 - 結末：クマに踏みつぶされてみんな死ぬ、互いに喰い合いをはじめ、猟師にみんな殺されるなども

2. 呪術と呪文をめぐる ロシアの歴史



2-1. 呪術への多様なまなざし

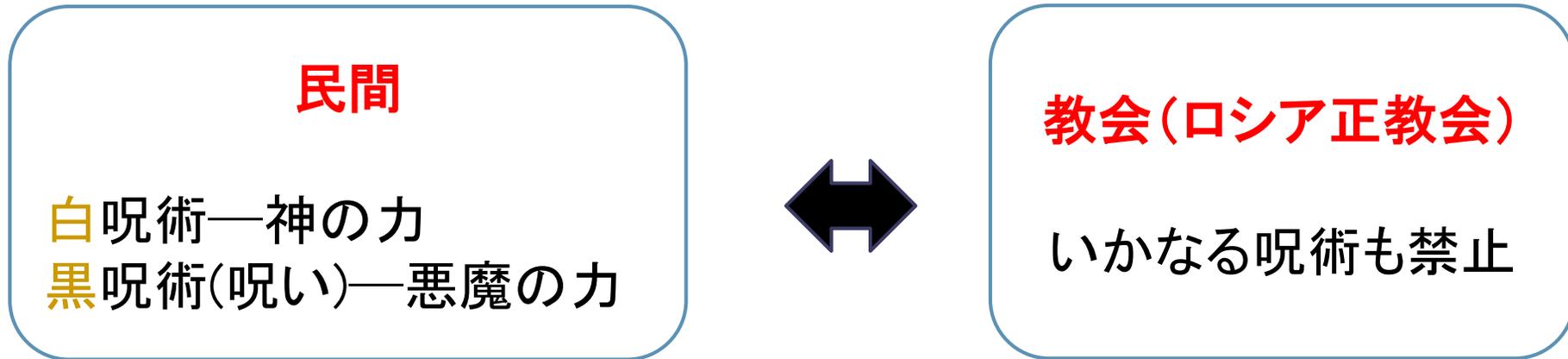
- ~17世紀：あらゆる階層で信じられる。宗教的・刑事的な罪
- 18世紀：「迷信」化の始まり
- 19~20世紀初頭
 - 農民：信じられる
 - インテリ：近代化を妨げる「迷信」／民族文化遺産として「発見」され、収集されるように
- ソ連時代：無神論政策により否定、迫害
- ポストソ連時代：宗教復興に伴って、呪術リバイバル。
 - 呪術を信じる人は7%？36%？

(藤原2010；ВЦИОМ 2008, 2016)



2-2. キリスト教との関係

- ロシアの呪術 = 異教文化 + キリスト教



3. 伝統的な愛の呪文

20世紀初頭までに採集されたもの

3-1. 愛させる呪文の例

- 別紙参照

3-2. ①唱え方についての指示

- バリエーション
 - その他の食べ物、飲み物、足跡

3-3. ②出だし

- バリエーション

- 主よ、祝福し給え。父と子と聖霊の御名において。アーメン。
(Виноградов 1907: No.37)

- 主よ、祝福し給え！ 主イエス・キリストよ、神の息子よ、我らを
憐れみ給え。アーメン。 (Виноградов 1907: No.124)

3-4. ③儀礼の描写

- 呪文を唱える者が何をして、どこに行き、誰に（何に）会うのかが語られる
- バリエーション
 - 私〇〇は起き上がり、家から扉を抜け、扉から門を抜け、広き野に、東に、東の方に向かう。そこで七人の兄弟に、七人の荒れ狂う風に出会う。（Майков 1869: No.3）
 - 私〇〇は祈りを捧げつつ、十字を切りつつ起き上がり、清き十字架で十字を切り、聖母に祈り、お辞儀する。私は門を抜けて通りに出て、広き野へ、広きひろがりへ、東へ、西へ、南へ、北へ向かう。広き野に、広きひろがりに十二人の風が、十二人の荒れ狂う風の兄弟がいる。私は十二の兄弟にお辞儀して祈る。（Виноградов 1907: No.124）
 - 私は祈りを捧げつつ立ち上がり、十字を切りつつ外に出て、広き野に、広きひろがりに向かう。その広き野で、広きひろがり、私は七十の強風と、七十の竜巻と、七十の強風の息子たちと、七十の竜巻の息子たちに出会う。彼らは緑の森の木を根こそぎなぎ倒し、石の洞窟を焼くために、聖なるルーシへ向かっていた。そこで私〇〇は彼らにお辞儀して祈る。（Ефименко 1877-1878: A1）

3-5. ④⑤依頼内容

- 愛させる呪文＝「乾きの呪文」
- 「乾き」「焦がれ（トスカー）」「悲しみ」「号泣」の物質化、人格化
- バリエーション
 - 七人の風よ、世界中の後家やみなし子や幼子から焦がれる〈焦がれ〉を集め、美しき乙女◎◎の熱き胸に運べ。（Майков 1869: No.3）
 - 十二人の風の兄弟よ、私○○（あるいは◎◎）の願いを聞き入れ、助け給え。私から〈焦がれ〉と〈悲しみ〉と大いなる〈乾き〉を取り出し、◎◎（または○○）の体に送り込め、彼女が乾き、私○○（あるいは◎◎）に恋焦がれるように（Виноградов 1907: No.124）
 - 広き野で三人の焦がれる〈焦がれ〉と、三人の乾く〈焦がれ〉と、三人の眠らぬ〈焦がれ〉に出会う。（Виноградов 1907: No.45）
 - 青き海に白きアラティル石があり、白きアラティル石の下に三つの板があり、その板の下に三つの焦がれる〈焦がれ〉と、号泣する〈号泣〉がある。私は近づき、深くお辞儀する。「母なる三人の焦がれる〈焦がれ〉と、三人の号泣する〈号泣〉よ、起き上がり給え、自らの燃えさかる炎で乙女◎◎を焼き給え、昼も夜も夜中も、朝焼け時も夕焼け時も。（Майков 1869: No.14）

3-6. ⑥ 「乾き」 「焦がれ」 の送り込み先

- 体の部位を列挙
- バリエーション
 - 母なる三人の〈焦がれ〉よ、入り込み給え、彼女の熱き胸に、肝に、肺に、考
えに、想いに、白き顔に、輝く瞳に (Майков 1869: No.14)
 - 三人の焦がれる〈焦がれ〉と、三人の乾く〈焦がれ〉と、三人の眠らぬ〈焦が
れ〉は◎◎の上に落ちる、その熱き胸に、柔らかな肺に、黒き肝に、熱き血潮
に、理性と知性に、輝く瞳に、体の肉欲に、七十二のすべての関節に、七十二
のすべての血管に。 (Виноградов 1907: No.45)
 - 鋼の斧で彼女の熱き胸を切り裂き、焦がれる〈焦がれ〉と乾ける〈乾き〉を入
れよ、その熱き血に、肝に、関節に、七十七の関節と小関節と、もうひとつの
関節に、七十七の血管に、背骨に。 (Майков 1869: No.3)

3-7. ⑦⑨呪文をかけられた人が陥る状態

- バリエーション

- ◎◎が私○○なしには生きていけず、いてもたってもいられず、飲むことも食べることもできず、言葉を交わすこともできぬように。彼女が私を見るたびに、私の声を聞くたびに、彼女の白き体も、熱き胸も、記憶も知性も、黒い肝も、熱い血潮も、骨も血管も、すべての関節も喜ぶように。
(Ефименко 1877-1878: A1)

- ○○が◎◎なしには生きていけず、いてもたってもいられず、一時間も、一時も過ごせぬように。乾きに乾け、太陽の照る昼間も、月の照る夜も、月が欠けゆく時も、月が満ちゆく時も、満月の時も、月が見えぬ時も。しおれにしおれろ、太陽の照る昼間も、月の照る夜も、月が欠けゆく時も、月が満ちゆく時も、満月の時も、月が見えぬ時も。 (Виноградов 1907: No.41)

3-8. ⑧火や熱さと関係するモチーフ

• バリエーション

- 広き野には、青き海のほとりには三つの燃えさかるペチカがある——タイルのペチカと鉄のペチカと鋼のペチカが。三つのペチカでは樗の薪が、ヤニを含んだ薪が燃え、燃えさかっている。このように、◎◎の熱き胸も○○に恋焦がれて燃え、燃えさかり、溶けよ。
(Виноградов 1907: No.37)
- 「炎のドラゴンよ！ 山や谷や、早瀬や錆色の沼や、ワシやミサゴの親子を焼かずに、美しき乙女◎◎を焼き給え、その七十七の関節と七十七の血管と背骨と彼女の情欲に火をつけよ」 (Майков 1869: No.7)
- 「炎の矢よ、どこへ飛んで行くのか？」 「暗き森に、ぬかるむ沼に、湿った木の根に！」 「炎の矢よ、引き返し、私が言うところへ行っておくれ。聖なるルーシに◎◎という名の美しき乙女がいる。彼女の中に入れ、その熱き胸に、黒き肝に、熱き血に、背骨に、甘い唇に、輝く瞳に、黒き眉に、彼女が [私に] 恋焦がれるように (Майков 1869: No.6 ; Ефименко 1877-1878: A9)
- 海には島があり、島には柱があり、柱の上には七十七人の兄弟がいる。彼らは昼も夜も、鋼の矢を鍛えている。私は彼らに密かに頼む。「七十七人の兄弟よ、私に矢を与え給え、どんな矢よりも熱く早い矢を」私はその矢で乙女◎◎を射る、その左胸を、肺を、肝を。
(Майков 1869: No.21)

3-9. ⑩結び

- 呪文の強さを語る文言+キリスト教の祈りの文句
- バリエーション
 - 我が言葉よ、固く強くあれ、とこしえに、永久(とわ)に。固い錠で言葉を閉じ、鍵は水に投げ入れる。(Майков 1869: No.8)
 - 我が言葉よ、固く強くあれ、石よりも鋼よりも。私はおまえたち [言葉] を三十の錠で閉じ、三十の鍵で封じる。我が言葉には過剰も不足もなく、いかなる曲者にも賢者にも変えられぬ。(Майков 1869: No.14)
 - 私は三十の言葉と三十の詩と三十の祈りを唱える。私は三十の錠と三十の鍵で [言葉を] 閉じ、その鍵を持ち去る。私は海から海へ行き、その金の鍵を海に投げ込む、あの白き燃ゆる石の下に。この海には誰も近寄れぬ、その水は誰にも飲めぬ、その砂は誰にも食いつくせぬ、あの金の鍵は誰にも取り出せぬ、私が生きている限り、私が死ぬまで。(Майков 1869: No.2)
 - 我が言葉よ、石よりも鋼よりも強く硬くあれ。我が言葉への鍵は天の高みに、錠は海の深みのクジラの元に。私○○を除いて、このクジラは誰にも捕らえられぬ、この錠は誰にも開けられぬ。このクジラを捕らえ、錠を開ける者は、雷に打たれた木さながらとなる。(Майков 1869: No.3)

3-10. ギリシャの呪文との比較

- 共通点

- 愛を炎に例えるモチーフ、愛の呪文をかけられた人が陥る、食べられない、飲めないなどの状態を語るモチーフ、体の各部を列挙するモチーフなど

- 伝播経路

- 聖書をギリシャ語から古代スラヴ語に翻訳する過程で、ギリシャの愛の呪文の伝統がスラヴ世界に取り入れられた

(Топорков2005:121-135)

3-11. 愛を冷ます呪文の例：引き裂く

- 別紙参照

3-12. ⑫⑭冷たさについての描写

- 火、熱さ ⇔ 氷

3-13. ⑬⑮引き裂かれた二人が取る態度

- いがみあい、一緒にいられないことを語る
- バリエーション
 - 悪魔が水辺を、オオカミが山を歩いている。ふたりが出会うことはなく、互いについて考えることも、想うことも、子をなすことも、愛をささやくこともない。同じように〇〇と◎◎も、互いに想うことも、子をなすことも、愛をささやくこともなく、とこしえに猫と犬のように不仲であれ。（Ефименко 1877-1878: A25）
 - 私〇〇は祈りを捧げず起き上がり、十字を切らずに歩きだす、扉から扉を抜けず、門から門を抜けず、畑の穴を抜けて。私は広き野にも、東の方向にも向かわず、日が沈む方を向く。日が沈むところには臭い川が流れ、臭い川には臭い丸木舟が浮かび、臭い丸木舟には大男が乗っていて、その顔は悪魔、肌は緑、目はフクロウ、口はオオカミ、まなざしはクマで、姿は野獣、吐く息は蛇さながら。この大男が怖く恐ろしく、忌まわしく煩わしいように、〇〇は◎◎にとって怖く恐ろしく、忌まわしく煩わしくあれ、昼も夜も、朝も夕も、正午も昼過ぎも、真夜中も真夜中過ぎも、月が欠けゆく時も、満ちゆく時も、月が見えぬ日も、いつの時も、時を超えて。暗き森を走る獣と、広き野を這う蛇のように、〇〇と◎◎が互いを想うことも考えることも、見つめ合うことも、言葉を交わすこともない。殴り合い、ひっかき合い、いがみ合って血が出るまでひっかき合い、会いたくもなくなり、互いを忘れよ、とこしえに、永久(とわ)に。（Виноградов 1908: No.73）

3-14. 愛を冷ます呪文の例：忘れる

- 「流れ早き〇〇川よ、私は焦がれる〈焦がれ〉と、泣きわめく〈乾き〉を携え、朝焼け時に三度、夕焼け時に三度、ここへ来て、白き顔を洗う。私の白き顔から泣きわめく〈乾き〉を落とすために、私の熱き胸から焦がれる〈焦がれ〉を落とすために。流れ早き〇〇川よ、早き水の流れと共に運び去り、深き川底に沈め給え。二度と私〇〇のところに戻らぬように」 (Майков 1869: No.30)

4. 現代ロシアの呪文

4-1. ポスト ソ連時代の呪術リバイバル

- 呪術師たちの活動の活発化
- 「実用呪文集」の大量出版
 - 呪術師による創作（=文学作品、偽フォークロア）がフォークロア化する現象
 - 例：ナターリヤ・ステパーノヴァの『シベリアの呪術師の呪文』シリーズ

4-2. ベストセラー呪術師ステパーノヴァ

- シベリアのノヴォシビルスク在住
- 知識は祖母から相続
- 代表作は『シベリアの呪術師の呪文』シリーズ
 - コンセプト：呪文で人生のさまざまな問題を解決
 - 各巻100以上の呪文が掲載
 - 読者の相談に対して、解決に必要な呪文の伝授
 - 新たな呪文が無限に創造される場
- 300冊以上の著書、1万編以上の呪文を公刊



Н. Степанова (1996-2020)
Заговоры сибирской целительницы

4-3. 誰が愛の呪文を唱えるのか？

- 伝統的な呪文：主に未婚の男性が乙女の愛を得るために唱える
- ステパーノヴァの呪文：主に夫との関係に悩む妻が唱える

4-4. 相談例

- 乳飲み子がいるのに夫が浮気を繰り返す

т.29, 39)

(Степанова:

- 夫が昔の女と会っている

(Степанова: т.35, 32)

4-5. 社会変化

- 離婚率の増加
 - 19世紀末：0.05% (伊賀上2013:78)
 - ⇒ 2020年：73% (Росстат)

4-6. 愛の呪文の表題例

- 伝統的な呪文
 - 愛させる呪文
 - 愛を冷ます呪文
- ステパーノヴァの呪文集
 - (Степанова: т.3, с.89)
 - (Степанова: т.3, с.93)
 - (Степанова: т.3, с.94)
 - (Степанова: т.3, с.93)
 - (Степанова: т.3, с.90-91)
 - (Степанова: т.4, с.22)
 - (Степанова: т.5, с.50-52)
 - (Степанова: т.9, с.49-50)
 - (Степанова: т.10, с.31-33)

4-7. 夫に妻を愛させる呪文例

(Степанова: т.15, с.8)

4-8. 夫と愛人の仲を冷ます呪文

(Степанова: т.24, с.49)

4-9. 愛の呪文のモチーフの流用例①： 子どもの心に母親への憐れみを呼び起こす呪文

(Степанова: т.24, с.61)

4-10. 伝統的な愛の呪文のモチーフの流用例②： アルコール中毒治療の呪文

引用文献

- Виноградов, Н. (1907-1909) Заговоры, обереги, спасительные молитвы и проч. // Живая старина, 1907, вып. 1-4; 1908, вып. 1-4; 1909, вып. 4, М.
- ВЦИОМ (2008) Новая газета. <http://www.newizv.ru/lenta/104224> (дата обращения: 6. 2009)
- ВЦИОМ (2016) Опрос: более трети россиян верят в колдовство и порчу // Газета.ru. 31. 10. 2016, 11:26. https://www.gazeta.ru/social/news/2016/10/31/n_9279221.shtml (дата обращения: 11.10.2017)
- Ефименко, П.С. (1878) Материалы по этнографии русского населения Архангельской губернии, собранные П.С. Ефименком. Ч.2. М.
- Майков, Л.Н. (1869) Великорусские заклинания. Записки императорского русского географического общества по отделению этнографии 2. т.2, СПб.
- Росс, Е. (2008) Русский фольклор в таблицах и схемах. БахраХ-М.
- Росстат (Федеральная служба государственной статистики). <https://rosstat.gov.ru/folder/12781> (дата обращения: 28.2.2022)
- Степанова Н.И. (1996-2020) Заговоры сибирской целительницы. т.1- т.52. М.: Рипол классик.
- Топорков, А.Л. (2005) Заговоры в русской рукописной традиции XV-XIX вв. М.: Индрик.
- 伊賀上菜穂 (2013) 『ロシアの結婚儀礼—家族・共同体・国家』 彩流社。
- ダンデス、アランほか著、荒木博之編訳 (1994) 『フォークロアの理論』 法政大学出版局。
- 藤原潤子(2010) 『呪われたナターシャ：現代ロシアにおける呪術の民族誌』 人文書院。
- ラチョフ、Е. 絵、うちだりさこ訳 (1965) 『てぶくろ』 福音館書店。